

## 高知県における 排出量取引の取組

(環境共生課)

### ○概要

高知県では、森林資源の有効活用と温暖化対策の観点から排出量取引に取り組んでいます。

今回の特集では、県独自に取り組んでいる排出量取引の現状、将来性について紹介します。

### 1 福田ビジョンと排出量取引

地球温暖化対策が世界的に喫緊の課題となる中、2008年1月、福田首相からクールアース推進構想が発表され、2050年には温室効果ガスの排出量を少なくとも半減させることが目標に掲げられました。

これをさらに進めた構想として、2008年6月に「福田ビジョン」が発表され、2050年までに2005年比で温室効果ガスを60～80%削減することをはじめ、太陽光発電普及率の向上や省エネ電球への切り替えなど、個別の対策について具体的数値目標が示されました。

また、この構想の中で、国内における排出量取引制度の試験導入についても初めて明言されました。

### 2 木質資源エネルギーの活用

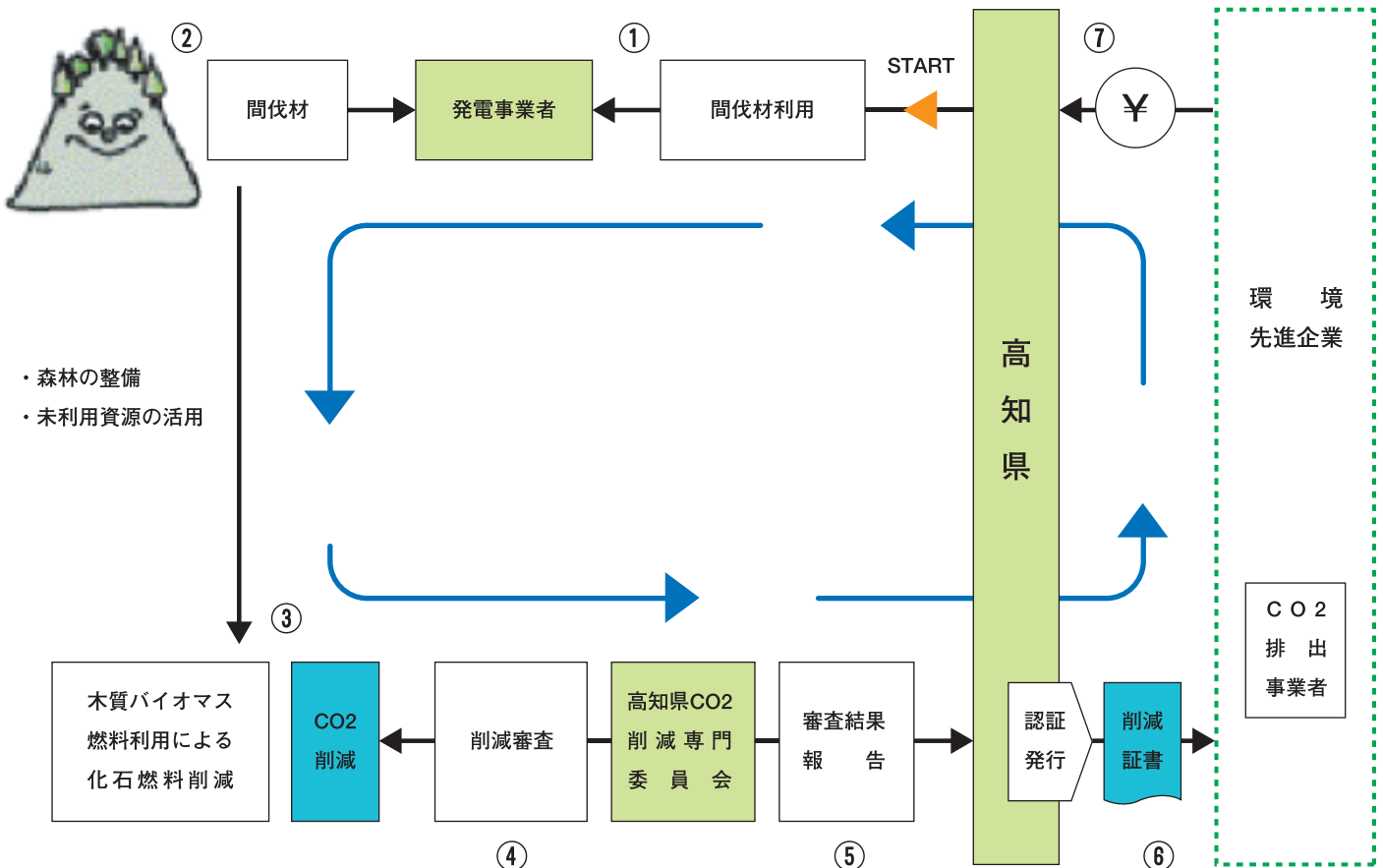
高知県では、森林の適切な管理や二酸化炭素の吸収を高めるため、間伐を推進しています。

その際に発生する林地残材などの木質バイオマスを、化石燃料の代替として使用することにより削減したCO<sub>2</sub>削減量を、県が独自に認証し、環境先進企業からの協賛金に結びつけるとともに、将来の国内排出量取引の先駆けとすることを目的として、平成19年度から「排出量取引地域モデル事業」に取り組んでいます。

この他にも、間伐材を利用して作る木質ペレットを、冷暖房やボイラーの熱源として、灯油や重油の代替として利用する取組も進められています。

このように再生可能な自然エネルギーへの転換を進め、化石エネルギーを削減させることで、地球温暖化対策の推進と林業の活性化が期待できます。

### ■高知県における排出量取引の流れ



### 3 国内排出削減プロジェクトからのVER認証管理試行事業

平成19年度から取り組んでいる排出量取引地域モデル事業では、大学教授や環境省職員などで構成する高知県CO<sub>2</sub>削減専門委員会を設置し、高知県独自の「CO<sub>2</sub>削減量」を認証する仕組みや、CO<sub>2</sub>削減量を算出する審査基準などを検討し、制度設計を行いました。

こうした中、平成20年6月、取組の先進性や京都議定書に規定するクリーン開発メカニズム(CDM)<sup>\*1</sup>に準拠した制度設計を行っていることなどが評価され、環境省のモデル事業である「国内排出削減プロジェクトからのVER<sup>\*2</sup>認証管理試行事業」に採択され、国内初の市場流通ができる排出削減クレジットを創出することとなりました。

なお、年度内には、生み出された排出削減クレジットで、東京都に本社を持つ(株)ルミネとカーボン・オフセット<sup>\*3</sup>による取引を行うこととしています。

### 4 今後の展望と将来性

国内はもとより、県内においても地球温暖化対策の一環としての排出量取引やカーボン・オフセットの考え方が普及しつつあります。

今後は、燃料転換による様々なタイプのCO<sub>2</sub>削減量をもとに排出削減クレジットを創出することで、県内に豊富に存在する森林資源を活用し、林業振興や中山間地域の経済活動の活性化に繋げていくとともに、新たな環境ビジネス導入の可能性について、検討を進めていきます。



木質バイオマスを利用した発電施設

#### —用語解説—

#### ※1 クリーン開発メカニズム(CDM)

先進国が開発途上国において技術・資金等の支援を行い、温室効果ガス排出量の削減または吸収量を増加する事業を実施した結果、削減できた排出量の一定量を支援元の国の温室効果ガス排出量の削減分の一部に充当することができる制度です。

なお、京都議定書の第12条に規定されており、温室効果ガスの削減を補完する京都メカニズム(柔軟性措置)の1つです。

#### ※2 VER

Verified Emission Reduction(検証された排出削減)の略。認証・発行・管理スキーム(現在検討中)に基づいて発行される国内における自主的な温室効果ガス排出削減・吸収プロジェクトから生じた排出削減・吸収量を指します。

カーボン・オフセット等の自主的な取組に活用可能です。信頼性の高い「オフセット・クレジット」創出により、国内におけるプロジェクトベースの自主的な排出削減・吸収の取組が促進されることは、国民運動として進めている「低炭素社会形成」を促す原動力となります。

#### ※3 カーボン・オフセット

日常生活や経済活動において避けることができないCO<sub>2</sub>等の温室効果ガスの排出について、[1]まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、[2]どうしても排出される温室効果ガスについてその排出量を見積り、[3]排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。

カーボン・オフセットは、オフセットを行う主体自らの削減努力を促進する点で、これまで温室効果ガスの排出が増加傾向にある業務、家庭部門等の取組を促進することが期待されます。